

八坂小通信



平成23年 11月30日

第601号

練馬区立八坂小学校

校長 西山 守

希望こそ

校長 西山 守

前日の雨から一転、好天に恵まれた11月12日。多数のご来賓のご臨席を賜り、開校40周年記念式典・祝賀会を挙行することができました。保護者・地域・関係の皆様の大なるご協力ご支援に重ねて御礼申し上げます。特に、加藤会長をはじめとする祝う会実行委員の皆様、工藤会長をはじめとするPTA役員の皆様のご尽力に、深く感謝いたします。ありがとうございました。

ご参加くださった方々からのお言葉の中で、異口同音にいただいた言葉があります。

それは、「学校・保護者・地域の連携がよく感じられた。」「温かく楽しい雰囲気だった。」「六年生が立派にやっていた。」などのお言葉です。校長としてどれもとても嬉しく思いました。

これからも子どもたちのため力を注いで参りますので、今後も、本校の教育活動にご理解ご協力お願い申し上げます。



記念児童集会 ▶

さて、早いもので今年もあと一ヶ月となりました。今年は、忘れられない年となりました。東日本大震災の大きな爪痕と、今も、そしてこれから長く続く、被災された方々のご労苦。これらを思うとき、心がずっしりと重くならざるを得ません。一日も早く多くの方が、穏やかな日常を取り戻せるように願ってやみません。

もう一つは、なでしこジャパンの優勝です。プロ契約できるのは一握りの選手だけという女子サッカーの現状の中、体格で勝る外国勢を相手に、最後まで決してあきらめずに懸命に体を投げ出して戦う選手の姿に、感動しま

した。

好きなサッカーができるのは、多くの人のおかげ。大勢の人の思いを背負って戦うからには、一瞬たりとも力を抜くことはできない。優勝することが、後に続く人のためになる。絶対負けられない。勝てる。そんな思いがひしひしと伝わってきました。



みんな輝け!! まだまだあるよ

音楽会 マラソン大会

苦難にあったときに人を支えるのは何か。それは、希望です。

第二次大戦中に、捕虜として収容所にとらわれていた経験のある精神分析学者フランクルは、著書の中で、そのことを示唆しています。

収容所の中で、いつか生きて帰れるんだという希望を失った人は、生気を失ってしまった。その後、結果的に助かったにもかかわらず、希望をもてなかった人は、もとのように生活することはできなかった。

絶望的な状況でも、最後まで希望を捨てなかった人は、結果的に命を失うことになった最後の瞬間まで目の輝きを失わなかった。また、終戦で解放された場合は、穏やかな心を取り戻し生活することができた。そのように書いています。

希望を失わず、自分にできることを、他人のためになることをやっていくことが復興に繋がると信じて、進んでいきたいと考えています。

